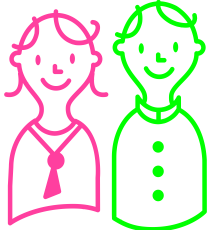


夢サラダ Vol.54

2013. 8. 1 発行

市民活動の拠点を目指しています。
「今治市民活動センター」
指定管理者：(特非) 今治NPOサポートセンター
【お問合せ】TEL/FAX 0898-25-8234
E-mail imanpo@nifty.com

高校生目線でNPOを伝える! 市民活動リポーター



「暮らしやすいまちにしたい!」「困り事を解決したい!」小さな気づきを共通し、仲間と始めた活動。現場には熱い思いが溢れています。けれど、活動の認知度や存在感が十分に高まっているとは言えません。賛同者・理解者を増やすために「伝える」ことは重要ですが、時間も技術も追いつかない…、そんな声を聞きます。

そこで、団体の活動について理解し、第3者の視点で「伝える」役割を果たすのが「市民活動リポーター」! 地元の高校生達が、活動現場の声を届けます!!



愛媛新聞社今治支社
宮野 雄 編集部長
趣旨をご理解いただき、全面
協力いただきました。

ボランティア・NPO

- ・広報がうまくいかない
- ・何を、どう伝えたらいいのか?
- ・発信は大切だけど、後回しに...



市民活動リポーター

- ・色々な人と出会いたい
- ・学校とは違う経験をしたい
- ・新しい発見がありそう



つなげよう、キュ!

市民活動リポーターの取組

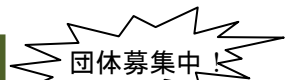
力を貸してくれる
高校生を大募集

今年度で3回目となるこの活動!
「先輩に勧められて」という1年生、
「勉強になったから」というリピータ
ーの学生まで、総勢14名が集結!

まずは「事前学習」
伝える極意を習得

去る6月23日(日)に初顔合わせ。
NPOについて学んだ後、愛媛新聞社
宮野氏を講師に、取材の基礎や心構
え、記事のポイントを学んだ。

いざ、現場へ!あな
たの所に出向くかも



取材内容は、本誌やコ
ミュニティFM等で発
信!あなたの活動の発
信に役立てませんか

「事前学習」の様子



地道に活動する団体
はたくさんあるが、ニュー
スになるのはごく一部。高
校生の目線でスポットを
当てて欲しい!そんなメ
ッセージからスタート。

市民活動を取り上げ、記事にする意味を個々にイメ
ージしながら、早速、取材や記事を書く手順や方法を
学んだ。「最新・迅速・正確・分かりやすさ」が不可欠と
記事のツボをレクチャーする宮野さん。実際の新聞記
事を例に、記事を集約した見出し、結論から書くテク
ニック、インパクトある写真、読み手の目線を意識したレイ
アウト等の具体的なポイント
を学んだ。取材相手に対す
るマナーもおさえた。

「見出しはいくつある?」
プロの記者の貴重なお
話。新聞には、読みやすく
する工夫がたくさん!▶



今年度は「リーダー」に焦点をあ
てることが決まった。後半は早速、
リーダーに迫る模擬練習。3人一
組で質問を考え、ぶつけてみた。

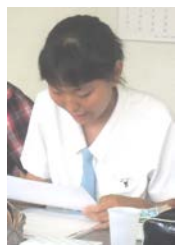
◀「とにかくたくさん書く!」そんなアド
バイスを受けていた高校生。聞いた
話がどのくらいメモできたかな。

聞き出した情報をもとに、文章に書いてみる。400字以内にまと
めることにチャレンジだ。そして、出来上がった記事を発表。

- ・出だしがよかった
- ・個性的な見出しだった
- と、互いに評価。
- ・抽象的で分かりにくい
- ・なぜ、その活動なのか伝わらない
- と改善のポイントも活発に出し合った。

宮野氏は「質問を掘り下げ、具体的に書く」ようア
ドバイス。読み手に伝わる記事は、書き手が「本当
に伝えたい」と思いを持って書いていること! 今後
の取組への姿勢となる助言で講座は終了した。

.....
あなたの団体にお邪魔するかも。高校生リポーター
の今後の活動に、乞うご期待ください。



団体決定!!

平成25年度



市民が共におこすまちづくり事業

親子で体験する防災訓練と コンサート

今治くらしライオンズクラブ
会長 龍田 宥仁ゆうにん



近い将来予想される東南海地震に備えるため、子どもたちの防災への意識を高めることが必須。親子で参加できる防災講座やコンサートも開催し、イベント時の避難訓練を実施。音楽を導入することで、楽しみながら防災の意識を高めるイベントを開催する。

「郷土の偉人 矢内原忠雄」 顕彰事業

「矢内原忠雄 顕彰」実行委員会
会長 新居田 大作



「我が国教育界の父」「日本の良心」「平和の使徒」と仰がれてきた郷土の偉人「矢内原忠雄」。

その生涯を世界平和と民主主義の育成に捧げてきた。この偉業を学習し、広く検証して、地域文化の振興に寄与する。

こどもの絆プロジェクト

こどもの絆プロジェクト
代表 青野 信久



福島子ども達を今治に招待する。今治子ども達と体験活動を通して、リフレッシュしてもらい、また今治の魅力も感じてもらいたい。福島子ども達の生の声を聞くことで、震災の怖さやお互い助け合う心を育み、また地元への愛情も育む。



石の道標の修復プロジェクト

NPO 法人アクションアイランド
理事長 矢野 都林くにしげ



大島には、島四国の巡礼の為に建てられた数多くの石の道標が存在するが、劣化や道路工事等で汚れや破損、直立していないものが散見される。これらの修理、整理を行い、島への訪問客の利便性に役立てる。

ママたちのリフレッシュ事業～ 支え合って子育てしよう

子育てグループ ひなたぼっこ
代表 近藤 まゆみ



音楽療法士による音楽交流会を親子、母親のみと分けて開催。音楽をとおして親子の絆を深め、また母親のみで行うことで、自分の時間を持ち、心を落ち着け日々のストレス解消につなげる。またアドバイザーを招いた子育て相談・座談会も開催する。

Di339 (ディーアイサンサンキュー)

Di339 実行委員会
実行委員長 曾我部 敏行



「Di」(出会い)から「339」(三々九度)までがコンセプト。「ボランティア」によって運営され、男女の出会いの場を増やし、今治で結婚する若者の増加促進やボランティアメンバーの自主性、実行力を活かす体験の場となり、今後の今治の活性化につなげる。

去る6月4日（火）、「市民が共におこすまちづくり事業」のプレゼンテーション（公開審査）が今治市役所でありました。今治市を個性的で魅力あるまちにする公益的な活動を支援する制度は、今年度で14回目の公募。12団体の応募があり、9団体が採択されました。活動内容をご紹介します。



「ぱりコレ(今治コレクション)」 「美・技 ing(ビギニング)」

今治美容師協会

代表 篠崎 裕章



ヘアー・ファッションショー「ぱりコレ(今治コレクション)」、ヘアーコンテスト・ヘアーショー「美・技 ing(ビギニング)」を開催する。

市外・県外からの多くの集客が見込め、「今治の活気・文化・食」を感じていただき「リターン」につなげ地域の活性化を図る。

今治建築祭 2013

今治建築祭実行委員会

代表 青陽 孝昭



今治市名誉市民である「丹下健三」の生誕100年祭を行い、氏の功績を讃えると共に、公共建築を「使う」という視点の形成や建築の魅力を伝える。また、瀬戸内芸術祭と連携を図り県外の方々に今治の建築文化のアピールができる活動とする。

かみうらサイクルホスピタリティ創出事業

自転車とかみうらをつなげる会

代表 赤尾 道子



大三島のホスピタリティのスキルを挙げる事業をロードレースチーム「ボンシャンス」をアドバイザーとして迎え、行う。自転車と島民の共存を考える交流会の開催、サイクルハザードマップの作成。サイクル合宿の地として、受け入れ体制を強化し、持続可能な街づくりへとつなげる。

市民が共におこすまちづくり事業とは？

市民自らが企画・実施する継続性のあるさまざまなまちづくり事業に、今治市が1団体1事業につき最大50万円を助成する事業（市民活動推進事業）です。

他団体との協働により、それぞれの特性を活かしてより効果的に事業（協働推進事業）を行うスタイルも対象となります。（最大100万円）

書類審査と公開プレゼンテーション審査を経て、事業の採択が決定されます。

審査基準は、公益性・自発性・団体の評価・費用対効果・事業の効果の5つの項目から採点されます。



（真剣に耳を傾ける審査員の皆様）

持ち時間4分間で活動の概要等をアピールした皆さん。審査員からは「事業終了後の継続」「予算の配分・費用対効果」等の質問が飛び交いました。限られた予算です。より効果的なプログラムに投資したい！そんな願いを審査員はもちろん市民みんなが抱いているのでしょう。各事業が今、はじまっています。是非、足を運んでみてください。



のどかな田園風景、白砂の海岸。目の前に広がる美しい自然環境は、農林漁業や日常生活等、人の営みとともに育まれてきた二次的な環境。親しみを込めて「里山・里海」と呼んでいます。今、一次産業への従事者が減り、管理が行き届かなくなったり、利用の変化が起こったりして、「里山・里海」の生物に危機が及んでいます。自分たちができることを考えて欲しい・・・そんな思いで活動する団体を紹介します。



里山・里海を守る地道な活動

活動事例①「大三島の自然を守る会」

農林漁業従事者の高齢化等により、人の手が入らなくなったり、土地利用の変化が起こったりして、生き物に危機が押し寄せています。

「大三島の自然を守る会」では、希少種の生息調査や観察会、休耕田の再利用等の保全活動を行っています。



今年の休耕田への田植えの様子
だるまがえるのふるさと再生だ！

●多様な生き物がいることの大切さ●

「生物多様性」って言葉を聞いたことがありますか。地球上には3000万種という生き物がいると言われています。私たち人間もその一種。つながり合い、支え合って、今の暮らしがあります。呼吸すること、食べ物があること etc、こんなあたりまえのことも、この多様な生物の上に成り立っているんです。



活動事例②「シクロツーリズムしまなみ」

自転車旅行による地域活性化に取り組む一環として、「自転車エコツアー」を実施。美しい景観に魅了されて訪れる旅行者や地域の子供達と、自転車で地域を巡る際に、分かりやすいフリップを使って、自分たちができることを考えてもらっています。

【ツアーで使うフリップ】



▲外来種 (持ち込み)

この地域に生息していなかった外来種が持ち込まれ、在来種が脅かされています。



▲アンダーユース (使わなさすぎ)

耕作放棄地が増える等、管理が行き届かないことで問題が定まっています。



▲オーバーユース (使いすぎ)

知識のない人が山・里・海を荒らしたり、希少種を乱獲したりしています。

NPO現場体験ツアー



夏から秋へ季節が移り、田んぼの稲穂も色づく頃です。ここ大三島の田んぼは、希少生物のダルマガエルすみかともなっているところ。大自然のリズムを感じながらの収穫体験から、保全活動を学びます。ふるってご参加ください。

日 時：9月1日(日) 10:00～15:00

会 場：大三島町^{うてな}台

内 容：休耕田での収穫体験
湿地や干潟観察会 など

定 員：50名 ※先着順

参加費：ランチ代 500円

持参物：水筒、軍手、稲刈り鎌(ある人)

受 付：8月6日(火)～26日(月)



ナビゲーターは「大三島の自然を守る会」の皆さん